不登校予防の指針に関する検討(1)

— 年間欠席パターンの分析 —

○寺田和永¹・谷 英俊²・津川秀夫³

(¹アキクリニック・²日笠クリニック・³吉備国際大学心理学部)

キーワード: 不登校, 年間欠席, 予防

Guidelines for preventing non-attendance at school (1)

— Analysis of annual absence pattern —

Kazuhisa TERADA¹, Hidetoshi TANI², Hideo TSUGAWA³

(¹Aki Clinic, ²Hikasa Clinic, ³Kibi International University)

Key words: non-attendance at school, annual absence, prevention

不登校の未然防止に向けて, 生徒の欠席管理が注目されている(小林, 2005; 妹尾・寺田・津川, 2007, 2008; 寺田・妹尾・津川, 2007, 2008)。本研究では, 各学年の欠席状況は直前直後の学年と強い相関があること(現代教育委員会, 2001)に着目し, 前年度の欠席日数から当該年度の長期欠席を予測し, 教室内で対応を図るための指針を検討することを目的とした。

方法

対象者 公立中学校6校において, 3年間(2004-2006年度)同一校に在籍した1013名(男性526名, 女性487名)。6校の3年間の平均長期欠席率は, 3.67%であり, 平成23年度の全国平均である3.43%(独立行政法人統計センター(2012))をもとに算出)とほぼ同じ割合であった。

年間30日以上欠席を「長期欠席」といい, そのうち病気や経済的理由による欠席を除いたものを「不登校」という。欠席理由の判断には評価者の思惑やバイアスが生じやすいため(小林ら, 2008), より不登校の実態に即すと考えられる「長期欠席」を本研究では採用した。

手続き 1年次の年間欠席日数をカットオフ値とし, 2年次の長期欠席の有無を判定基準とした場合の感度, 特異度, 陽性的中率, 陰性的中率および有病率を算出した。また, 感度, 特異度をもとにROC曲線を作成した。さらに1年次の欠席日数からスクリーニングされる生徒の割合と一学級を35人と仮定した際の生徒数について求めた。

2年次の欠席日数と3年次の長期欠席の有無をもとに同様の手続きをおこなった。

結果と考察

1年次, 2年次の欠席日数をカットオフ値とした各指標およびROC曲線をTable 1, 2, Figure 1, 2にそれぞれ示した。

前年度の欠席日数が, 1年次で4日-11日以上, 2年次で5日-12日以上において, 感度, 特異度, 陰性的中率のいずれにおいても75%を超えており, この範囲において長期欠席の可能性のある生徒が幅広くスクリーニングされると考えられる。一方, 同範囲の陽性的中率は12.68%-33.71%と低いものであった。これは有病率に示したように長期欠席率が3%-4%程度と低かったことが影響したと考えられる。

また, 同範囲でスクリーニングされる生徒の割合は8.79%-27.25%であり, 一学級に換算すると3.08人-9.54人であった。不登校予防の指針を考える場合, 適応状況に注意を払うなど教師が十分な対応ができる範囲に対象生徒数が設定されることが重要である。そこで, スクリーニングされる生徒が一学級の1割程度になるようにカットオフ値を設定した。

以上のように, (1) 幅広いスクリーニング, (2) 対応可能な人数, の2点を考慮した結果, 対応の基準としては「前年度10日以上欠席」が適当な条件であると考えられる。

付記: 本研究を進めるにあたって倉敷市教育委員会指導課の協力を得た。

Table 1 1年次の欠席日数をカットオフ値とした感度・特異度・陽性的中率・陰性的中率・スクリーニング率(%)および学級換算値(人)

欠席日数(≧)	感度	特異度	陽性的中率	陰性的中率	スクリーニング率	学級換算
1日	94.87	37.06	5.69	99.45	64.17	22.46
2日	94.87	53.80	7.60	99.62	48.08	16.83
3日	89.74	68.17	10.14	99.40	34.06	11.92
4日	89.74	75.26	12.68	99.46	27.25	9.54
5日	87.18	81.21	15.67	99.37	21.42	7.50
6日	87.18	85.83	19.77	99.41	16.98	5.94
7日	84.62	88.19	22.30	99.31	14.61	5.11
8日	79.49	90.66	25.41	99.10	12.04	4.22
9日	76.92	92.09	28.04	99.01	10.56	3.70
10日	76.92	92.92	30.30	99.02	9.77	3.42
11日	76.92	93.94	33.71	99.03	8.79	3.08
12日	74.36	95.07	37.66	98.93	7.60	2.66
13日	71.79	95.17	37.33	98.83	7.40	2.59
29日	48.72	99.38	76.00	97.98	2.47	0.86
30日	48.72	99.38	76.00	97.98	2.47	0.86

※有病率:3.80%

※着色部分は感度, 特異度が75%以上

Table 2 2年次の欠席日数をカットオフ値とした感度・特異度・陽性的中率・陰性的中率・スクリーニング率(%)および学級換算値(人)

欠席日数(≧)	感度	特異度	陽性的中率	陰性的中率	スクリーニング率	学級換算
1日	100.00	31.13	6.46	100.00	70.29	24.60
2日	97.83	48.81	8.33	99.79	53.31	18.66
3日	93.48	60.70	10.17	99.49	41.76	14.62
4日	93.48	69.70	12.80	99.56	33.17	11.61
5日	93.48	76.73	16.04	99.60	26.46	9.26
6日	89.13	81.28	18.47	99.37	21.92	7.67
7日	89.13	84.38	21.35	99.39	18.95	6.63
8日	84.78	87.18	23.93	99.18	16.09	5.63
9日	82.61	89.14	26.57	99.08	14.12	4.94
10日	80.43	91.00	29.84	98.99	12.24	4.28
11日	78.26	91.93	31.58	98.89	11.25	3.94
12日	76.09	92.66	33.02	98.79	10.46	3.66
13日	73.91	93.69	35.79	98.69	9.38	3.28
29日	60.87	98.66	68.29	98.15	4.05	1.42
30日	58.70	98.76	69.23	98.05	3.85	1.35

※有病率:4.50%

※着色部分は感度, 特異度が75%以上

Figure 1 1年次欠席日数におけるROC曲線

Figure 2 2年次欠席日数におけるROC曲線